



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和5年8月31日

高P連全国大会宮城大会 (8/24・25) の報告です!



今年度は宮城県を会場に、高P連全国大会が開催されました。三条高校からは、PTA役員3名及び事務局1名の計4名で参加してまいりました。

1日目は分科会。我々は第3分科会に参加し「レジリエンス教育」について学びを深めました。レジリエンス教育とは、困難な問題や危機的な状況、ストレスといった要素に遭遇してもすぐに立ち直ることができる力を育成することを指します。仙台大学の氏家教授の講演と、3名のパネルディスカッションで、「落ち込む高校生に疲れた大人は何ができるか？」をテーマに、不登校や若者の自殺といった今日的な諸課題について考察を深めました。

2日目は全体会。記念公演は仙台育英学園高等学校野球部監督の須江航氏でした。演題は『伝わる言葉～失敗から学ぶ～』。なんと、公演の2日前に甲子園決勝を戦い、前日に仙台市に凱旋したばかりでした。須江氏は、昨年度の夏の甲子園で東北勢として初めての優勝を果たし、優勝インタビューでコロナ禍の中の高校生の想いを代弁した「青春ってすごく密なんです」という言葉は新語流行語大賞で選考委員特別賞を受賞したことを思い出す方もいるかもしれません。須江氏の1時間にわたる公演は、我々教職員のみならず、社会人として活躍している保護者の皆さんにとっても大変面白い深いものでした。

仙台育英高校卒業の氏は選手としては大成しなかったことから「人生は敗者復活戦」がモットーとのこと。仙台育英に入学し、練習に参加し、レギュラーになれないことを悟るのに2日もかからな

かったそうです。いかに“できない”選手だったかについての話に、会場は大いに盛り上がりました。

選手育成に際して心にとどめていることは「肯定は否定を凌駕する」「脳は非定型を処理できない」だそうです。『ミスするな!』と言われた選手は必ずミスを頭にイメージしてしまうそうです。そしてミスを繰り返す。この場合、ミスの原因の一端は指導者にあると須江氏は断言します。また、昔は通用した「いいから走れ!」「黙って走れ!」は、今の子どもたちには一切通用しないと云います。莫大な情報に囲まれ、必要な情報をいつでも手にできる今の選手に対しては「何のためのメニューで、できるようになったらどんなプラスがあるかを細かく具体的に指示しなければならない」と云います。また、指導者・リーダーの言葉について、「相手に伝わる言葉とは、相手が聞きたいことである」と云います。だからこそ「選手に聞く(何を欲しているか)ことを大切にしている」とのこと。

須江氏は今の子どもたちを「センタクネイティブ」と呼び、「自ら“やりたいこと”を選択して生きてきた世代」だと言い、よって「怒られ耐性と叱られ耐性が低い」と云います。だから、指導においては「他人と比べないこと・自分の失敗から学ぶように導くこと」を重視しているそうです。このことを理解せずに指導を行うと、絶対に生徒は伸びないと言います。ただ一方で、「“気合・根性・ガッツ”は最後の最後には物を言う」とも云います。ただし「最初から“気合・根性・ガッツ”を全面に出すと人は思考停止に陥る」とも云い、子どもたちを指導する上での留意点だと感じました。

今年度、仙台育英学園高校は慶応高校に敗退し、“限りなく優勝に近い”準優勝に終わりました。来年度の活躍を心から祈っています。

教頭・福田敏憲



今年も麦音イベントやりました!

8月5日、「麦音deフェス」が開催され、今年も三条生が多数参加し読み聞かせやゲームなど子どもたちとのふれあいイベントを実施しました。これは昨年度、当時3年生だった小谷愛実さん・倉口遙那さんが、麦音とコラボしたイベントを提案し、本校地域コーディネーターの長岡さんの協力のもと実現したものでした。

昨年参加した生徒たちも多く、今年度も三条生が主体となってくれました。今回参加し読み聞かせに挑戦した2年4組句坂友香さんは「突然のことで緊張しましたが、子どもたちの反応のお陰で、楽しく笑顔でやりきることができました。保育士を目指す上でとても良い経験になりました」と述べてくれました。三条生が地域の中で主体的に活動していくことは、自らの進路を考える上で大きく役立ちます。今後も三条生の挑戦に期待します。

今回の『きらり』はインターハイや全国総文祭に出場した生徒たちの声をお届けします。そして、36年振りの北海道開催となったインターハイ。その運営を支えたのも生徒たちでした。その姿を紹介します。

三条生 インターハイ・総文祭など全国の舞台で躍動！

陸上競技部

男子400m・男子800m 出場



400m 49秒57 **3年5組 加藤 哲太 さん**

まず、僕がインターハイに出場できたことが自分の中ではとても大きなことだと思います。高2までは長距離で全道では全くの無名の選手でしたが、高3から始めた400mでインターハイ出場という一つの夢を叶えることができました。その夢の舞台では実力不足で自己ベストとは程遠いタイムで終わってしまいましたが、格上の人達と走れてとても良い経験になりました。次は大学でさらに上を狙って頑張ります。

800m 1分55秒74 自己新

3年6組 須長 柁太 さん

中学から始めた陸上の集大成の大会であり、緊張でいっぱいでしたが、札幌開催ということもあり、家族や仲間たちが応援に来てくれてとても心強かったです。レースでは「いっそこで死んでやる」くらいの気持ちで、全国の場でも勝負する攻めた走りをして、最大目標以上の自己ベストを出すことができました。人生で一番嬉しい瞬間だったと思います。

アーチェリー部

男子：太田琉偉さん（3-3）・小原有樹さん（3-5）・関井隆之さん（2-5）
女子：武田愛莉さん（3-1）・瀬谷優香さん（3-3）・藤井珀亜さん（3-4）



3年3組 太田 琉偉 さん

私たちはこのインターハイという舞台に挑むため、メンバー全員が日々の練習を全力で取り組んできました。ですがそれは全国の他の選手と比べたら極めて少ない練習時間であったということも思い知らされました。これが全国のレベルであり、これからはより一層練習に磨きをかけていかないといけないということを後輩には伝えていき、自分たちでは果たせなかった夢を後輩に託します。貴重な経験ができたことを大会に関わった全ての方々に心から感謝します。

3年1組 武田 愛莉 さん

私たちは3年間3人で団体戦を闘いぬいてきました。そのため、今回地元で開催されたインターハイへの想いは強く、3人で出場することを目標に練習を続けてきました。

そんな夢の大舞台では大会の雰囲気や圧倒されつつも、それぞれが自己ベストを出す気で試合に臨むことができました。結果は残念ながら自分の力を十分に発揮することはできず、決勝に進出できませんでしたが、一生に一度の経験を、この3人でできたことをとても嬉しく思います。



放送局

NHK杯全国高校放送コンテスト

テレビドキュメント部門：入賞、アナウンス部門：近藤采さん（3-5）、朗読部門：小川創さん（3-3）
第47回全国高等学校総合文化祭2023 かがしま総文
オーディオメッセージ部門：審査員特別賞（ブロック2位）、ビデオメッセージ部門：ブロック5位、
朗読部門：小川創さん（3-3）



局長 3年5組 近藤 采 さん

まず、私は第47回全国高等学校総合文化祭2023かがしま総文で初めて自分が責任者をしているラジオ番組を上映してきました。自分たちの作品がどれだけ全国大会で通用するのか、どれだけ作品の思いが全国の方に伝わるのかを考え緊張しながら挑みました。発表終了後は色々な方から面白いテーマだった、わかりやすくて興味を惹かれる作品だったという声を掛けていただきました。この大会では本校初の審査員特別賞をいただき、また直接感想を聞けるとても良い経験をすることができました。

美術部

第47回全国高等学校総合文化祭2023 かがしま総文 美術工芸部門参加



3年3組 喜多 美味 さん

私は7月29日から8月2日まで鹿児島市で開催された美術工芸部門に参加してきました。おそらく生徒だけでも500人以上はいて、ここにいる人たち全員が芸術に関わっていると思うと圧倒されました。今回、全国の人が集まる機会に参加して、SNS越しに見ていた価値観に初めて出会って実感しました。自分の世界観や路線を確立している人も、自分の考えていることや表現したいことを煮詰めてこれを描いたんだなという人もいました。そういったものと同時に美術に直接関わらない知識や経験も絶対に必要だし、生きてくると思いました。

インターハイ運営に三条生が貢献

帯広では女子サッカー、剣道、アーチェリーの3競技が開催されましたが、多くの本校生徒が大会を支える運営業務を担ってくれました。女子サッカーにはサッカー部、剣道には剣道部、華道部、写真部、アーチェリーにはアーチェリー部・スケート部・放送局・図書局・美術部の生徒たちが当日の運営業務を務めてくれました。また、剣道開会式では吹奏楽部は入場曲演奏で、合唱部は国歌を映像で披露しました。関係する多くの皆様方から三条生の献身的な活動に賞賛の声が届いています。お陰様でいずれの大会も無事終了し、参加した全国の高校生にとって思い出深いものになったことと思います。暑い夏に負けない熱い心でのおもてなしに改めて感謝します。



【アーチェリー会場にて】